

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立鶴ヶ島清風高等学校)

目指す学校像	地域に貢献できる人材の育成
重点目標	1. 「自ら考える力」の育成 2. 「健全な職業観」の育成 3. 「社会で通用する人間力」の育成

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇談会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価 (1 月 21 日 現 在)		学 校 関 係 者 評 価	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	①基礎学力の定着を図り、学習意欲を高め、進路実現を支援する。	授業改善・自主学習の取組の推進	①放課後の自習室の活用を推進し、授業での課題を工夫する等、自主学習の習慣を付けさせる。成績不振者への補習や進学補習の充実を推進する。 ①授業改善を進める。	①生徒アンケートにおける以下の項目について水準を維持したか。 ・授業に満足している。 ・授業が理解できるか。 ・授業外学習ゼロ時間と回答する生徒が減少したか。 ①学習室を利用することができた生徒がいたか。	授業改善の成果は現れているが、自主学習の習慣化が課題である。 ①生徒アンケートにおいて授業に満足64.3%→75.9%と増加。授業が理解できる66.5%→71.0%と増加。 ①授業外学習ゼロ時間39%→45%で増加。全年次成績不振者を含め自習室を設置し年次で対応した。	B	授業満足度は全体で70%を維持しているが3年次生は62%である。授業を理解できる生徒は各年次60%を越えている。引き続き自主学習の習慣付をさらに進め、授業外学習時間を確保していく必要がある。自習室利用者増加のため学校全体で取り組んでいく。 1年次のインターンシップは縮小した形で実施。2年次の希望制インターンシップ、大学授業見学・聴講はさらに参加者を増やせるよう生徒の意識の高揚を図る。進路未定者のさらなる減少も目指す。生徒が自身の進路実現について主体的に考える姿勢がさらに向上するように、各種ガイダンスや進路行事の質を高める。
	②1、2年次生には幅広く進路を考える支援を、3年次生には早期の進路希望決定の促しを行う。そして、目的意識を持った専門学校選択をさせるとともに、4年制大学・短期大学への進学者を増やす。 ②進路選択に十分な情報を提供し、適切な指導を受ける機会を増やし、自らの進路について主体的に考え、準備できる能力をさらに伸ばさせる。		ガイダンス機能を充実させたキャリア教育の実践	②1年次インターンシップ、2年次希望制インターンシップと上級学校見学の両面からキャリア教育を3年間計画的・効果的に実施し、より現実的な職業観を確立させ、「社会人としての責任、就労の意義」を認識させる。 ②総合的学習の時間、LHR等を有効に使い、質の高い進路ガイダンス・講演会・講義・見学会をより多く実施することで漸進的に生徒の進路意識の高揚と進路目標の確立を図る。	②1.2年次生は、年次後半での進路意識及び聞く、質問する、表現する力の向上を、3年次生は進路未決定者の割合10%以内を目指す。 ②生徒意識調査の結果を随時比較・検討する。大学・短大進学希望者が増加したか。自身の進路希望実現について主体的に考える姿勢が身についたか。また、各種検査の結果分析と改善策を職員全体で共有する機会を持てたか。	②1.2年次のインターンシップ、上級学校訪問によるキャリア教育と発表会、作文指導による表現力の養成を行うことができた。また、12月時点で進路未定者の割合が8パーセントに減少した。 ②大学・短大と就職の希望者が増加傾向にあり、専門学校希望者がやや減少傾向にある。進路実現について主体的に考える姿勢はまだ不十分である。基礎学力検査等の結果分析は教職員で共有する機会が増えたが、改善策の共有までは至らなかった。	A
2	①多欠、多遅刻者数が改善された。規律正しい学校での生活を身につけ、整理整頓を徹底する。	基本的な生活習慣の確立	①生徒指導部、学年と連携し家庭の協力を得ながら、遅刻者、欠席者を数減少させる。 ①学校全体できちんとした服装で授業を受けること、チャイム着席、整理整頓を徹底させる。	①出席率の高い水準で維持できたか。 ①生徒アンケートでチャイム着席ができた割合が高い水準で維持できたか。	挨拶は習慣化されつつあるが、出席率等の向上に課題を残した。 ①欠席はのべ2848人から3387人と増加、遅刻は2349人から2380人と変化なし。 ①チャイム着席92.2%→93.8%とほぼ全員が着席している。多欠席者、多遅刻者の人数についてはほぼ昨年並みであった。	A	欠席者は増加、遅刻者はほぼ変化がない。特定生徒に偏る傾向が依然ある。早期に対応できるよう年次と連携を取りながら、全体での指導および年次と家庭が連携する形での指導を引き続き行いたい。チャイム着席を促すように引き続き教員にも協力を呼びかけ生徒のチャイム着席が定着するように進めていく。 服装、頭髪の指導件数も数年前と比べるとかなり落ち着いている。問題行動の件数は昨年よりは増加したが、H27年度・H28年度と比較すれば減少している。徹底した指導の継続を行う。
	②出席率、遅刻率はここ数年改善の傾向にあるが、遅刻を繰り返す傾向にある。 ②整容面(服装・頭髪)は改善されつつあるが、高校生活でのルールが守れない生徒がいる。 ②挨拶のできる生徒は増えてきたが、日常生活に必要なマナーが守れない生徒がいる。		礼儀・作法と挨拶、整理整頓の徹底	②朝の校門指導及び多遅刻者の指導を行う。(月5回以上、学期15回以上) ②全校集会における整容指導の実施及び違反者への指導に粘り強く取り組む。 ②挨拶励行の徹底および日常生活を送る上でのマナーについて集会や日常の場面で指導する。	②出席率、遅刻率、多遅刻者が前年より改善されたか。 ②服装、頭髪違反者、問題行動等が前年度より減少したか。 ②自発的に挨拶する生徒が増えたか。日常生活についてマナー向上が見られたか。	②問題行動件数は前年よりも増加し、1学期には10件であった。しかし、年次の継続した指導の結果、2学期の同件数は1件となった。服装、頭髪指導対象者は例年並みであった。 ②本年度より、男子ワイシャツの形状を変え、またネクタイについて通常の形状のものも購入出来るようにした。おおむね好評である ②挨拶が出来、外部から評価されている。	A
3	①保護者向けのHPのページが充実した。もっと保護者に閲覧して欲しい。 ①外部への発信を計画的に行い中学生、保護者、地域に情報を発信する。 ①地域との連携を通じ生徒のコミュニケーション力を育てると共に地域に貢献する。	開かれた学校づくりの推進	①HPを部活動の協力の下に充実させ「清風高校が見えるHP」を目指す。 ①学校通信を中学校、地域、自治会へ配布する。学校行事を地域に宣伝し地域連携を図る。学校説明会の内容をリニューアルし充実させる。 ①地域、自治体より情報を得て地域と交流、地域へ貢献を部活動、出前授業等を通じて行う。	①生徒保護者にHPのアンケートを実施その高い評価を得られるか。 ①学校通信を中学校、地域施設、近隣自治会への回覧で広く広めることができたか。 ①地域、自治体から得られた情報を集約し参加生徒数、部活動の協力件数が高い水準を維持したか。	地域との連携を推進し信頼関係等構築されたが、地域住民にまで浸透していない。 ①HPの更新回数ほぼ毎日更新した。学校通信を全鶴ヶ島市内の家庭に前回より多く9回回覧した。 ①学校説明会の参加者形態を工夫した。全体で684人。第7回→49人(含む 西部地区さんだる) ①学校説明会で多くの1・2年次生有志、部活動の協力を得られた。	A	学校全体で取り組みを次年度も協力しHPの更新に力を入れる。今年度市役所に回覧をお願いし市民すべてに回覧したが、次年度も継続しさらに全学校通信を回覧させたい。 学校説明会では在校生の協力が大きな力となった。次年度も在校生に協力を依頼し生徒のコミュニケーション力をつけていく。 各部活動へ地域のイベント情報を伝え、参加計画を立てやすくしていく。 使いやすく分別しやすいよう、ごみ箱の設置場所や表示等を改善していく。
	②ごみの分別をする習慣が定着しつつある。		公共意識の確立	②判りやすく分別しやすいごみ箱を適宜設置し、分別したごみを出しやすい集積場を整える。	②燃えるごみ、カン・ペットボトル、パック類が分別されており、混にごみがないか。	②一部不備はあるものの、基本的な分別はできている。 ごみ箱に合うポリ袋の容量を表示した。	A

学校関係者評価実施日	平成31年2月1日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考える習慣は中学生の段階で教育されることと思うが定着していない。辛抱強い個別指導が求められる。 ・考える力を養うとともに発言する力も伸ばしてほしい。 ・受け身の勉強から能動的な学びへ生徒の姿勢を変えていく事が必要である。アクティブラーニング、学びあい、双方向のやり取りを通して質問能力を高め、興味や関心を持たせて論理的な思考を育む。 ・授業外学習を広義に理解すれば、読書・就労体験も入るのではないだろうか。
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が自己の個性を的確に把握し職業の世界の現実を認識し、自己の希望や能力・適正などに照らしてその選択が妥当性を持つかを検討するにも、インターンシップは必要である。今後の充実を願う。 ・挨拶はとても良くできている。欠席者数を改善する為には、原因を確認し取り除く必要がある。 ・総サラリーマン化する中で、家庭や地域での大人の働く姿は内側からは実感できない。英のギャップイヤー、独のデュアル教育の様に学生のうちから社会との接点で学ばせる必要がある。
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・部活の組織の一員になり後輩の世話、人とのかわりあい、配慮、気遣い、部活のメニューを自主的に考えたリ、気持ちをこらえて冷静にふるまえる等「社会人基礎力」の向上につながると思う。 ・清風高校のイメージはとても良くなっている。地域活動により参加して人間力を育てる。 ・経験や体験値を上げ、行動する中で成功体験や失敗等もどこで迷い失敗したか、それらを栄養にして自ら学び成長する過程を大切にしたい。